

荏原製作所の知財 ROIC：最新状況

作成日：2026年5月29日

作成者：Manus AI

要旨

荏原製作所の知財 ROIC は、単なる知財部門 KPI ではなく、ROIC 経営を知的財産・無形資産領域へ拡張する管理指標として社内浸透が進み、2026 年には外部表彰でも高く評価された段階にあります。一方で、公開資料上、知財 ROIC の具体的な数値そのものは確認できず、現時点では方向性・改善領域・運用高度化の開示が中心です。

荏原の統合報告書 2025 では、知財 ROIC を「知的財産活動による成果 ÷ 投資（知財費用 + 工数）」として示し、知財活動の事業収益への貢献度向上を狙う指標として位置づけています。

観点	最新状況	評価
指標の位置づけ	知財活動の成果を、知財費用と工数に対する効率で見る独自の指標	ROIC 経営の知財版として明確化
2024 年実績の方向感	「差別化による競争優位」の若干低下と「知財リスク低減による安定化」の横ばいを除き、改善	全体としては改善傾向だが、一部課題が残る
主な課題	権利化成果の減少、ブランディング成果度の伸び悩み、リスク低減領域の効率改善	成果量だけでなく効率性が論点
今後の改善	カンパニー別に知財 ROIC を算出し、事業特性に応じた改善策を検討	指標の粒度を上げる段階
外部評価	2025 年度「知財・無形資産ガバナンス表彰」で優秀賞を初受賞	知財 ROIC の浸透と AI 活用が評価

1. 知財 ROIC の位置づけ

荏原製作所は、全社的な ROIC 経営を知的財産・無形資産領域にも展開し、知財活動の成果と投入資源との関係を可視化するために独自の知財 ROIC を用いています。この指標は、知財活動を「守り」の権利管理にとどめず、事業利益の増加や資本回転率の向上に接続するための管理指標として機能しています。

2024 年対象の統合報告書 2025 では、荏原は知財 ROIC ツリーを使い、知財活動と事業利益の増加および回転率向上との関係を整理し、因果要因別に成果を数値化していると説明しています。

2. 2024 年実績の読み取り

2024 年は、多くの項目で改善が見られた一方、「差別化による競争優位」は若干低下しました。会社側はその要因として、新規出願成果は伸びたものの権利化成果が減少したこと、またブランディング活動の成果度向上が進んでいないことを挙げています。

また、「知財リスク低減による安定化」は横ばいでした。ただし、リスク低減については成果自体は伸びているため、今後は成果量の拡大だけでなく効率改善が重要な論点になると考えられます。

年度・資料	開示されたポイント	読み取り
統合報告書 2024	2021～2023 年の単年度成果を 2021 年基準の相対値で表示し、知財活動成果を因果要因別に数値化	知財 ROIC の試行・可視化フェーズ
統合報告書 2025	2024 年は一部を除き改善。今後はカンパニー別算出も検討	運用改善・事業別精緻化フェーズ
2026 年 3 月ニュースリリース	知財・無形資産ガバナンス表彰で優秀賞を初受賞	外部評価による実装度の確認

3. 外部評価：知財・無形資産ガバナンス表彰

最新トピックとして重要なのは、荏原が 2026 年 3 月 25 日に「知財・無形資産ガバナンス表彰（2025 年度）」で優秀賞を初受賞したことです。評価理由は、独自の知財 ROIC により知財を経営資源として有効活用する考え方が浸透していること、さらに AI を活用した「知財プロアクティブ活動」により、財務指標、例えば時価総額等へのつながりを意識した透明性の高い情報開示を行っていることでした。

内閣府の知財投資検討会資料でも、荏原については、CTO・CFO・CHRO が一体で

「Governance to Value」を実践し、「知財 ROIC」や「生産革新 ROIC」などの独自指標で ROIC-WACC スプレッド最大化を推進している点を取り上げられています。また、知財プロアクティブ活動では、提言書を事業部門トップへ直接提案する仕組みが評価されています。

4. 全社 ROIC との関係

財務面では、荏原グループ全体の ROIC 経営も引き続き強化されています。2025 年 12 月期は売上収益 9,582 億 85 百万円、営業利益 1,138 億 2 百万円と過去最高を更新し、2026 年 12 月期計画では売上収益 1 兆 200 億円、営業利益 1,250 億円、ROIC 12.0%、ROE 16.5%を見込んでいます。

したがって、知財 ROIC は、全社 ROIC を直接代替する数値ではなく、知財・研究開発・事業部門の活動を全社 ROIC 向上へ接続するための中間管理指標と見るのが適切です。

5. 今後の注目点

総合すると、荏原製作所の知財 ROIC は、現在、「指標の導入」から「社内浸透・外部評価・事業別精緻化」へ進んだ段階です。今後の注目点は、知財 ROIC の具体数値やカンパニー別の推移が開示されるか、AI を活用した知財プロアクティブ活動が事業提言・権利化・ブランド力・リスク低減を通じてどの程度財務成果に接続するか、そして 2026 年度以降の全社 ROIC 12%計画にどのように寄与するかです。

参考文献

荏原グループ 統合報告書 2025 : https://www.ebara.com/content/dam/ebara/grand-masters/entities/ja/ir/library/annual-report/INT25_all_JP.pdf

荏原製作所「知財・無形資産ガバナンス表彰（2025 年）」の優秀賞を初受賞：

<https://www.ebara.com/jp-ja/newsroom/2026/20260325-02/>

知財・無形資産ガバナンス表彰（2025 年度）審査結果等について：

https://storage.googleapis.com/studio-design-asset-files/projects/M3aAQR3Mae/s-1x1_d44a22b5-c948-466c-a0fc-0911602eb696.pdf

内閣府 知財投資検討会 資料 5 「【2025 年度】知財・無形資産ガバナンス表彰の概要」：

https://www.cas.go.jp/jp/seisakukaigi/titeki2/tyousakai/tousi_kentokai/dai29/shiryo5.pdf

荏原製作所 2025 年 12 月期 決算短信〔IFRS〕（連結）：

https://www.ebara.com/content/dam/ebara/grand-masters/entities/ja/pdf/ir/library/earnings/earnings/161_q4_jp.pdf